

「 私たちに今できること 」

福井県 福井市足羽第一中学校 2年 田谷 のぞみ 望

私が住む福井県では、今から21年前の2004年7月18日に1000年に1度と言われる福井豪雨がたくさんの民家や人々を襲いました。私はまだ生まれていなかったためあまり土砂災害について知りませんでした。しかし去年福井豪雨から20年という節目の年ということで福井新聞で土砂災害の特集が組まれていました。そこで死者・行方不明5人、浸水家屋13000棟以上という当時の悲惨な状況を知りました。また、家族に聞いたところ、近くの「堂田川」が氾濫して堂田川の鯉が外に出ていて保育園も水浸しになっており、大変だったそうです。上流での水害から約4時間後に足羽川堤防が決壊し避難指示が出されましたが、避難情報が出た地区住民を対象に調査されたところ

「避難しなかった」と答えた割合は61.1パーセントにのぼりました。私はすぐに避難しなかった人が多かったということが原因となって死者や行方不明者が多くなってしまったと考えました。また、今までの私のように土砂災害の恐ろしさをわかっていない人がたくさんいて逃げ遅れにつながっていると思いました。

そうした逃げ遅れや被害を減らすために大切なことは3つあると思います。

1つ目は「自分事」として考えることです。福井豪雨の時はみんな自然災害に慣れていて軽く思っていたため、避難する人が少なかったり逃げ遅れる人が多かったりしたと考えられます。「まだ大丈夫」や「みんな逃げていないから」など他人事に考える人が逃げ遅れてしまう人だと思うので、それを無くすことが大切だと思います。福井は自然災害をたくさん経験してきたエリアです。この「経験」が避難行動にとってマイナスな経験となる場合があります。しかし「経験」はプラスにすることができると思います。行動は情報、経験、環境から成り立っています。このことから避難行動は災害の時の情報、これまでの経験、置かれた環境に大きく影響されていると言えます。つまり、福井豪雨という恐ろしい災害を経験した福井では、その経験をプラスに働かせることができます。

2つ目は「自助」です。災害でできるだけ被害を減らすための行動は3つあり、1つ目は一人ひとりが自ら取り組む「自助」、2つ目は身近にいる人同士が助け合って取り組む「共助」、3つ目は国や公共団体などが取り組む「公助」です。3つの中でも「自助」は自らの命を守る意識を持って自分1人で行動することができ、1番の基本で大切なものです。日頃から防災グッズを用意したり、避難経路や避難場所を確認しておいたりするなど簡単なものばかりなので自分事として考えることにも役立つと思います。福井豪雨のような大規模災害の時には「公助」がすぐに届かない場合もあります。そんなとき、「自助」による事前の備えが、被害を最小限にするための非常に重要なことになります。今日から行動することができることなので、一人ひとりが「自助」を心がけて災害に対しての意識を持っていきたいです。

3つ目は、家族との連携です。いつ起こるかわからない自然災害だからこそ、いつも備えることが大切だと思います。私は去年家庭科の授業で「ローリングストック」を学びました。ローリングストックとは防災用に備えながら使い、使った分を買い足すことです。ローリングストックでは日々使いながら備えることができます。また、ローリングストック以外にも水災補償や地震保険、防災袋などたくさんの備えがあります。防災袋に必要なものは一人ひとり違うため家族と話しながら自分も家族も守れるような防災の取り組みを考えて行動していきたいです。

日本は自然災害が多い国で南海トラフ地震なども予想されており日々の備えが大切です。私は、家族に話を聞いたり新聞を読んだりして福井豪雨の被害や土砂災害の恐ろしさ、防災の大切なことを知って考えを深めることができました。福井豪雨の経験や日本などで起きた自然災害の経験や教訓を活かすことで同じ被害を繰り返すことを防ぐことができます。

私には大切な人やものがたくさんあります。その大切な人やもの、自分を守るために自然災害を甘く見ないで自分事として捉えて日々を大切に過ごしていきたいです。自然災害は予想することや止めることはできないし、私もまだ中学生でできることは少ないけれど一人ひとりの小さな行動

や「自助」がみんなの助けになることがわかりました。これからは学んだことを活かして地球や自然と上手く共存していきたいです。